

獣医師生涯研修事業のページ

このページは、Q & A形式による学習コーナーで、小動物編、産業動物編、公衆衛生編のうち1編を毎月掲載しています。なお、本ページの企画に関するご意見やご希望等がありましたら、本会「獣医師生涯研修事業運営委員会」事務局（TEL：03-3475-1601）までご連絡ください。

Q & A 小動物編

症例：生後3カ月、ロングコートチワワ、ブルータン、未避妊雌、体重600g、7種混合ワクチン1回済、フィラリアとノミの予防はしていない。

現病歴：ブリーダーより生後2カ月で購入した時から脱毛している。痒みはないとのことであった。

身体検査所見：食欲、元気あり。体温、心拍数、呼吸数、飲水量、尿量に異常は認められなかった。

CBC 及び生化学検査：特筆所見は認められなかった。

皮膚病変と皮膚検査：頭・首から体幹・臀部に至るまで、ブルーの被毛部分の毛が非常に薄く、わずかに発毛しているものの、極端に短くなっているのが認められた。その部分の皮膚領域は乾燥し、鱗屑を伴っていた。タン（うす茶色）領域の毛は問題なく発毛が認められた（図1、2）。皮膚搔爬試験及び直接押捺検査では寄生虫及び感染は認められなかった。ブルーの被毛部分の毛検査では図3のような毛が観察された。



図1 全身の被毛状況

質問1：通常の毛の中には認められない、本症例の毛幹内（図3）に観察されるものは何か。

質問2：以上の検査から考えられる皮膚病は何か。

質問3：皮膚検査で注意すべき点は何か。

質問4：今後どのような検査をすればよいか。

質問5：治療法を含め、ご家族にはどのような説明と指導をすべきか。



図2 タン（うす茶色）領域における被毛状況

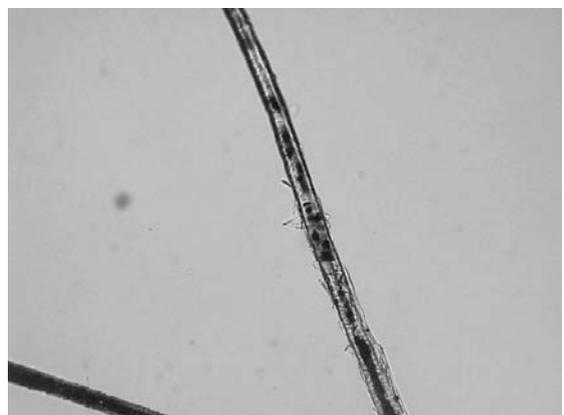


図3 ブルーの被毛部分の毛検査

（解答と解説は本誌914頁参照）

解 答 と 解 説

質問1 に対する解答と解説：

毛幹内には大型の凝集したメラニンを確認する。

質問2 に対する解答と解説：

淡色被毛脱毛症 (Color dilution alopecia : CDA) が疑われる。この病気は、ブルー、シルバー、グレー、フォーンなどの希釈色 (dilute color) の被毛を持つあらゆる犬種に発症する常染色体劣性遺伝による非炎症性脱毛症である。成長期に毛母のメラノサイトが産生するメラニン (メラノソーム) の輸送または貯蔵の障害により、毛幹内に異常なメラニン凝集が (melanin clumping) が起きるために巨大メラニン顆粒が作られ、毛包機能が障害される結果、脱毛が生じると考えられている。病状が進むと毛包は正常に形成されなくなり、完全な脱毛へと進行する。

本症例は生後2カ月齢より脱毛が認められ、また脱毛以外の皮膚病変は認められず、さらに被毛色のブルータンのブルー部分の領域に限り脱毛が認められる。発症初期にはこの脱毛部分は全く毛がないわけではなく、毛根から毛が生えてはいるが、メラニンの凝集を起こしている場所が非常に弱いため、摩擦によってそこから容易に折れてしまうことにより脱毛しているように見える。

質問3 に対する解答と解説：

問診では、痒みの有無とともに、脱毛がいつ始まったかを聴くことが重要である。多くの場合は、生後2~3カ月から1歳までに発症することが多い。このような若齢期に発症する場合は、遺伝性疾患を疑う。

一般的に皮膚病で来院する多くの症例でルーチンに行う検査は皮膚搔把検査と皮膚直接押捺検査であるが、本症例のような場合は毛幹検査が重要となる。脱毛部にきわめて近い部位の長い被毛を根元から優しく引き抜き、ミネラルオイルまたは生理食塩水を落とすものに、カバーガラスを載せて観察する。正常なブルーの被毛は、毛皮質内にメラニン色素が均等に分布するのに対し、CDA症例は毛皮質内にメラニン凝集 (図3) を認める。

質問4 に対する解答と解説：

痒みを伴わない脱毛症としての除外診断を行うため、甲状腺機能低下症及び副腎皮質機能低下症のホルモン測定を行う。これらに問題がないと確認された後、脱毛部位の皮膚病理検査を実施する。本症例の病理所見では毛包内に多数のメラニン凝集が認められた (図4)。同様の病理所見が認められる病気として、黒色被毛毛包形成異常症 (black hair follicular dysplasia) がある。この病気は、黒い色の被毛にのみ同様の症状が認められる。

質問5 に対する解答と解説：

治療法はないが、メラトニンの内服 (3mg/kg q12h) がある程度の発毛促進、あるいは症状の進行を遅らせることを期待できる可能性がある。ご家族にはこの病気は皮膚だけに起きている病気であることを強調する。

脱毛部位は、外的刺激、皮膚の乾燥、紫外線に弱いため、特に外出の際にはこれらの予防として服を着させる方がよい。普段のシャンプーなどは保湿系のもを選び、特に冬など乾燥しやすい時期は保湿剤の使用が有効である。

遺伝性の病気のため、繁殖には不適である。

キーワード：常染色体劣性遺伝、非炎症性脱毛、毛検査、メラニン凝集

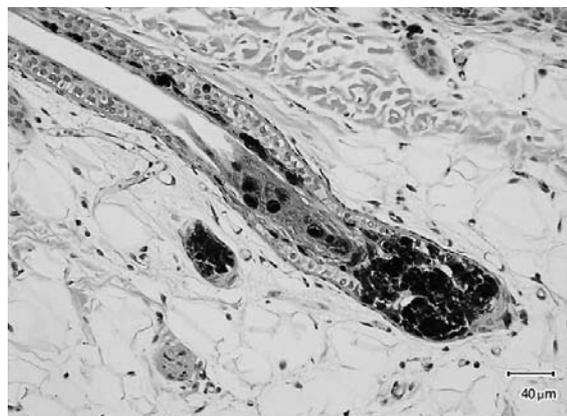


図4 毛包内における多数のメラニン凝集

※次号は、産業動物編の予定です